

健康被害

予防事業だより



ERCA

No.42



みんなで
えがこう
青い空

ぜん息児水泳記録会

環境再生保全機構では公害健康被害予防事業の一環として「ぜん息児水泳記録会」を開催しています。この大会は、健康の回復や増進を目的に水泳教室に参加しているぜん息を持つ児童たちが一堂に集まり、タイムレースを通じて日ごろの成果を発表するなど、ふれあいを深める場となっています。

9月23日に大阪プールで行われた関西大会には168人の、10月9日に東京辰巳国際水泳場で行われた関東大会には177人の子どもたちが記録会に参加しました!



招待選手の中尾美樹選手によるワンポイントレッスン(関東大会)

Interview

「続けること」の大切さを伝えていきたい。

中尾美樹 Nakao Miki

—水泳を始めたきっかけは何ですか?

私が生まれ育った長崎は、海に囲まれた土地なので、子どもの頃からとにかく「水」に関わるスポーツが好きでした。特に水泳は、いとこが先に始めていたので興味がありました。

—中尾さんが考える水泳の素晴らしさとは

水泳は誰でも平等に楽しめるスポーツ。怪我をすることが少なく、どの年代でも、例えばハビリのためなど、体の弱い人でも親しみやすいですし、特別な道具がなくても、「水」さえあれば誰でも気軽に始めることができるところが、素晴らしいと思っています。

—「ぜん息児水泳記録会」に参加してみて、いかがでしたか?

皆さんが本当に楽しんでいる様子が伝わってくる大会でした。「何秒だった、何位だった?」と、無邪気に、かつ競技にこだわりをもって参加している子どもたちと一緒に、私自身も楽しむことができました。教えたことを一生懸命にやってみようとする子どもたちの姿勢に、こちらの方が励まされます。

—水泳を始めたい、水泳選手になりたいという子どもたちに、メッセージをお願いします

身近なオリンピック選手の中にも、ぜん息を持っていたり、ぜん息がきっかけで水泳を始めたという人はたくさんいます。そうした子どもたちが、やがてオリンピックなどの高い目標を持つようになってくれると嬉しいですね。私自身も水泳を続けていく中で、いいことばかりではなく、苦しいことやつらいこともたくさんありました。でもそれを乗り越え、何回も繰り返し練習し続けたからこそ、自分の夢をかなえることができたのだと思っています。だから皆さんにも、くじけずに、家族やまわりの人たちを大切にしながら、目標を達成してほしいです。



中尾美樹

長崎市生まれ。1994年NSW選手権(オーストラリア)で日本記録樹立。1996年に出場したアトランタオリンピックでは、女子200mおよび100m背泳ぎで入賞、2000年のシドニーオリンピックでは女子200m背泳ぎで銅メダルを獲得する。現在は近畿大学に所属し、後進の育成や水泳をはじめとするスポーツの普及に努めている。



ぜん息キャンプ

ぜん息キャンプ

ぜん息キャンプは短期間、専門のスタッフのもとで集団生活を送ることにより、ぜん息に対する知識を深め、発作時の対処など自分自身でできる対処法を身につけ、自立心を養うことなどを目的としており、平成22年度は24の自治体において実施されています。

主な内容は、体操やスポーツ、レクリエーション、呼吸法や発作時の対応などの講習会、病気に対する勉強会などで、これらを基本に各団体ではさまざまな独自の工夫によるプログラムが組まれています。

今回は8月17日～20日に実施された西宮市のぜん息キャンプについて、ご紹介します。

西宮市



体操で朝から元気いっぱい



カヌーに挑戦!

～西宮市のぜん息キャンプの紹介～

西宮市ぜん息児キャンプ、通称「やまびこキャンプ」は瀬戸内海の無人島「余島(よしま)」で実施されました。参加したのはぜん息をもつ市内在住の小学校4年生の34人です。豊かな自然に囲まれた余島で子どもたちは、海水浴・カヌー・釣り・アーチェリーなど立地を活かした様々なキャンププログラムを楽しみました。

また、やまびこキャンプでは毎晩夕べの集いの時に、ぜん息についてのお話が行われました。1・2日目は医療スタッフの医師と看護師から「ぜん息はどのようにして起こるのか」「発作が起こったらどうすればいいのか」というぜん息の基本的な知識について、易しい用語や気道の模型を用いて説明がなされました。3日目にはぜん息に関する3択クイズが行われ、子どもたちは楽しみながらキャンプ中に教わったぜん息の知識を復習しました。

腹式呼吸の練習のためのミニハーモニカの長吹きや短い詩の一息朗読競争も毎朝夕行われ、最初は腹式呼吸ができなかった子どもも、毎日行ううちに徐々に慣れてきて、最後はうまく腹式呼吸ができるようになっていました。

3泊4日という短い期間でしたが、その中で子どもたちはぜん息について楽しく学んだり、友だちをたくさん作ったりと充実したキャンプ生活を送ることができました。

参加者の声

児童の感想

・ぜん息に少し勝った気がします ・初めてのことはばかりで楽しめた ・カヌー、アーチェリーは難しかった ・友達がたくさんできて楽しかった

保護者の感想

- ・親元を初めて離れてのキャンプでしたので心配していましたが、帰った顔を見て一目で楽しかったとわかりました。自宅に着いてもずっとキャンプの話をしていました。小さい頃から「ラップ」「ピアノカ」を吹く事を嫌がり(苦しいそうです)しようとしませんでした。今回いただいた「ハーモニカ」を気に入り毎日吹いています。
- ・何日も家族と離れた事がなく、本人も行きたくないと言っていたのですが、キャンプに参加させていただき帰ってきた時にはすごく楽しかったと話してくれました。同じぜん息を持ったお友だちとたくさん出会えてお友だちがたくさんできたと喜んでいました。毎日の体操とげんきノートを楽しんでいます。このキャンプに参加できて本当に良かったです。優しくして下さったリーダーの話は今でもしてくれ。一生忘れられない思い出ができたと思います。

公害健康被害予防事業の概要

公害健康被害予防事業は、大気汚染の影響による健康被害を予防するために実施しており、これにより地域住民の健康の確保を図ることを目的としています。

公害健康被害予防事業を実施するために必要な費用は、事業者等から拠出されている拠出金及び国からの出資金により基金を設け、その運用益により賄うこととされています。事業内容としては、機構が自ら行う事業(直轄事業)と地方公共団体が行うものに対し助成する事業(助成事業)からなっています。

なお、平成20年度より、環境省から自立支援型公害健康被害予防事業補助金が交付されています。

特集

公害健康被害予防事業

環境保健(直轄事業)

環境保健(助成事業)

環境改善事業

公害健康被害予防事業

機構が自ら行う事業 (直轄事業)

- 調査研究
大気汚染による健康影響に関する総合的研究
- 知識の普及
 - ・講演会、講習会等の開催
 - ・ホームページ、パンフレット等による情報提供
 - ・ぜん息電話相談の運営
 - ・ぜん息児水泳記録会の開催 など
- 研修
主に地方公共団体が行う公害健康被害予防事業の従事者に対する研修

環境保健事業

- 調査研究
局地的大気汚染対策に関する調査研究
- 知識の普及
 - ・エコドライブコンテスト**、エコドライブセミナーの開催
 - ・ホームページ、パンフレット等による情報提供 など
- 研修
主に地方公共団体が行う公害健康被害予防事業の従事者に対する研修

環境改善事業

地方公共団体が行う事業に対して助成 (助成事業)

- 【ソフト3事業】
- 健康相談事業
医師・保健師等によるぜん息等に関する相談・指導
- 健康診査事業
乳幼児を対象とした問診等によるぜん息の発症予防のための指導
- 機能訓練事業
ぜん息児等を対象とした水泳訓練教室、音楽訓練教室、ぜん息キャンプ
- 【施設等整備(助成)事業】*
- 医療機器等整備(助成)事業

- 計画作成事業
地域の大气環境改善のための計画作成への助成
- 【施設等整備(助成)事業】**
- 最新規制適合車等代替促進(助成)事業**
排出ガスのより少ない最新規制車への代替促進への助成
- 大気浄化植樹(助成)事業
大気浄化植樹への助成

※施設等整備(助成)事業は地方公共団体への直接助成と地方公共団体を介して民間事業者への間接助成に分かれています。

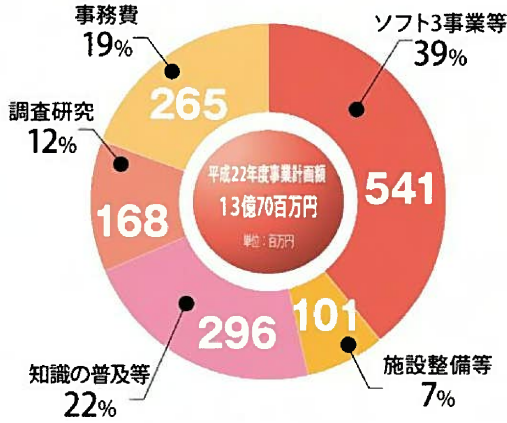
※※平成22年度限り

自立支援型公害健康被害予防事業(平成20年度より実施)

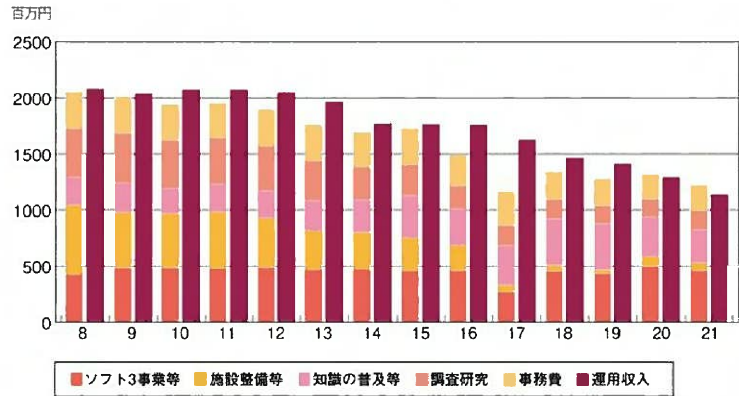


事業費等

◆平成22年度事業計画額



◆予防事業実績額と基金運用収入実績額の推移



平成22年度事業のポイント

1 ソフト3事業等(健康相談・健康診査・機能訓練事業)

地域住民のぜん息等の発症予防、健康回復に直接つながる事業に引き続き重点化を図る観点から、健康相談、健康診査及び機能訓練事業(ソフト3事業)を重点的に助成します。その際、環境省の自立支援型公害健康被害予防事業補助金(予算額2億円)も活用します。

また、昨年度から2年間、ソフト3事業の参加者に対して事業参加前後におけるぜん息症状の変化などについて質問票調査を行い、ソフト3事業の事業実施効果の測定を行います。

2 知識の普及事業

健康相談、健康診査及び機能訓練事業(ソフト3事業)の実施に必要なパンフレットの作成、ぜん息専門医による講演会・講習会の開催、ぜん息電話相談等の事業を積極的に実施します。

3 調査研究

ぜん息やCOPD等の発症・増悪の防止、健康回復のための知見を得るための調査研究を行っています。ぜん息等の発症予防、健康回復を図るための事業の根拠となる知見の確立及び事業実施基盤の強化、事業効果の適切な把握に係る課題に重点化を図り、公募により実施します。

4 大気環境の改善事業

局地的な大気汚染の改善を図る観点から、エコドライブ(環境にやさしい自動車運転)の普及促進のためエコドライブセミナー等の事業を展開するとともに、調査研究を実施します。

環境保健(直轄事業)

特集

公害健康被害予防事業

環境保健(直轄事業)

環境保健(助成事業)

環境改善事業

調査研究

環境再生保全機構では、気管支ぜん息やCOPDの発症・増悪の防止、健康回復のための知見を得るための調査研究「大気汚染による健康影響に関する総合的研究」を行っています。

平成21年度からは、

- (1)小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び事業内容の改善方法に関する調査研究

- (2)気管支ぜん息患者の年齢階層毎の長期経過・予後を踏まえた健康相談、健康診査、機能訓練事業の事業内容の改善方法に関する研究

- (3)ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

について、公募により実施しています。

今年度採択された案件は、以下の16課題です。

平成22年度の研究課題

分野	主任研究者	所属	研究課題
(1)	小田嶋 博	独立行政法人国立病院機構 福岡病院	健康相談事業の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究
	近藤 直実	国立大学法人 岐阜大学大学院 医学研究科	気管支喘息のテラーメイド的予知に基づく発症予防法とQOL調査票を導入した独創的評価法の確立に関する調査研究
	望月 博之	学校法人 東海大学 医学部専門診療学系小児科学	健康診査事業の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究
	宇理須 厚雄	学校法人藤田学園 藤田保健衛生大学 医学部小児科	ぜん息キャンプ・水泳訓練教室・音楽教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する研究
	新宅 治夫	公立大学法人 大阪市立大学 医学部小児科	喘息キャンプの効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究
	大矢 幸弘	独立行政法人 国立成育医療研究センター 内科系専門診療部アレルギー科	ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究
	藤澤 隆夫	独立行政法人国立病院機構 三重病院 臨床研究部	気道炎症評価にもとづく小児ぜん息患者の効果的な長期管理法と自己管理支援の確立に関する研究
(2)	秋山 一男	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	気管支ぜん息患者の年齢階層毎の長期経過・予後を踏まえた健康相談・健康診査・機能訓練事業の事業内容の改善方法に関する調査研究
	赤澤 晃	東京都立小児総合医療センター 総合診療部小児期診療科	小児・思春期を対象とした健康相談・健康診査・機能訓練事業を効果的に実施するために事業従事者が有すべき知識の体系化に関する調査研究
(3)	灰田 美知子	医療法人社団茂恵会 半蔵門病院	成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導(患者教育)の実践に関する調査研究
	大林 浩幸	岐阜県厚生農業共同組合連合会 東濃厚生病院 内科	「喘息死ゼロ」実現に向けた、東濃地区における患者吸入指導一貫体制の整備とその効果検討
	滝澤 始	学校法人 帝京大学 医学部附属溝口病院	ぜん息患者及び未発症成人における気道炎症病態と種々の要因とくに大気汚染状況との関連に関する調査研究
	森 晶夫	独立行政法人国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター	吸入ステロイド薬服薬指導の実態と効果的な病薬連携、指導プログラムによる長期管理改善に関する研究
	大田 健	学校法人 帝京大学 医学部内科学講座	成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導の実践に関する調査研究
	千住 秀明	国立大学法人 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	COPD患者と公害認定患者に対する重症度別、簡便呼吸リハビリテーションプログラムの多施設間無作為比較試験に関する研究
	一ノ瀬 正和	公立大学法人 和歌山県立医科大学 内科学第三講座	COPD患者における日常生活活動性の定量評価法の確立に関する調査研究

第21回環境保健調査研究報告会

平成22年3月14日(日)、時事通信ホールにおいて第21回環境保健調査研究報告会を開催いたしました。研究者のほか、医療関係者、産業界や自治体から75名のご出席をいただきました。16研究班の先生方より、平成21年度(第8期1年目)の調査研究により得られた結果、今後の展望などを発表いただき、評価委員の先生方やご来場の方々からの質疑応答、意見交換等を行いました。

研究成果や評価結果の内容については、今後ホームページ「ぜん息などの情報館」にて掲載を予定しています。



知識の普及

ぜん息予防等に関する講演会

環境再生保全機構では、ぜん息等に関する知識の普及を図ることを目的として、一般の方々を対象に専門家によるぜん息やアレルギーに関する講演会を関係自治体と共催しています。

平成22年度は、予防事業対象地域の6箇所（神奈川県、四日市市、神戸市、東京都、吹田市、岡山県）で開催されます。ここでは神奈川県で開催された講演会をご紹介します。

こどものぜん息・アレルギー講演会 ～病気の理解と対応方法～

神奈川県の講演会は平成22年10月17日に秦野市保健福祉センターで開催され、78名の来場がありました。

前半は東海大学医学部付属病院小児科で日々診療にあたられている望月博之先生に「ぜん息・アトピー・食物アレルギー 基礎知識と最新治療」について講演して頂きました。講義では、ぜん息は慢性の気道の炎症が問題であることや、早期発見のためにはこれまでの肺機能検査に加え気道過敏性の検査が有効であることなどについてお話を頂きました。また近年増加している学童のアトピー性皮膚炎の治療にシャワーによるスキンケアが有効であるとお話も頂きました。

後半のテーマは「知っておきたいセルフケア実践のポイント」で、東京都立小児総合医療センターの益子育代先生によって、ぜん息薬の吸入、エビペン®などの医療器具の使用方法や家庭でできるスキンケアの実演を取り入れた講演が行われました。

講義の他にも質疑応答が行われ、参加された方からは「患者さんの実体験のお話を聞くことができ大変参考になりました」「実際の器具の紹介・実演があり、とても分かりやすかったです」などの声を頂くことができました。



研修

地方公共団体において健康被害予防事業に従事している方々を対象に、効果的な事業の実施に必要な知識や技術の習得を目的として行われる研修です。以下のコースがあります。

初任者研修	ソフト3事業（健康相談事業、健康診査事業、機能訓練事業）に従事する初任者の事務担当者、保健師等を対象に事業の実施に必要な医学的な基礎知識、事業実施方法等を習得するための研修
機能訓練研修	機能訓練事業（水泳訓練教室、音楽訓練教室、ぜん息キャンプ）に従事する事務担当者、保健師、指導員等を対象に実習や事例紹介等を通じて、事業の実施に必要な医学的知識・技術、効果的な事業実施方法等を習得するための研修
保健指導研修	ソフト3事業に従事する保健師、栄養士等を対象に講義、実習等を通じて患者への保健指導に必要な専門知識や指導方法等を習得するための研修
予防事業フォローアップ研修	ソフト3事業の中から毎年度テーマを設定し、そのテーマについての講義、自治体間のディスカッション等を通じて、効果的、効率的な事業の実施に必要な知識、技術等を習得するための研修（平成22年度は「ぜん息キャンプ事業」をテーマとして実施）
環境改善研修	地方公共団体で大気環境改善施策に従事する担当者等を対象に、環境行政、自動車環境対策等の大気環境改善施策の推進に関する知識・技術等を習得するための研修

コース名		開催地	日程
初任者研修	小児	東京	平成22年6月7日
	成人		平成22年6月8日
機能訓練研修		東京	平成22年7月5日～7月7日
保健指導研修（東日本）	小児	東京	平成22年9月8日～10日
	成人		平成22年9月16日～17日
保健指導研修（西日本）	小児	大阪	平成22年9月29日～10月1日
	成人		平成22年10月14日～15日
予防事業フォローアップ研修		東京	平成22年11月29日
環境改善研修		東京	平成23年1月13日～14日

環境保健(助成事業)

特集

公害健康被害予防事業

環境保健(直轄事業)

環境保健(助成事業)

環境改善事業

ソフト3事業(健康相談・健康診査・機能訓練事業)

健康相談事業

【事業内容】

地方公共団体では、医師、保健師、栄養士等を確保し、地域住民の方々のぜん息等に関する相談事業を行っています。相談方法としては、集団相談、個別相談、家庭訪問指導等があり、相談以外にも気管支の状態を客観的に把握することができるピークフローメーターの支給又は貸与、ぜん息薬の吸入を補助するネブライザーの貸与なども行っています。



公害健康被害予防事業	
基金事業	自立支援型公害健康被害予防事業
●集団相談(健康教室等)	●個別相談 ●家庭訪問指導 ●ネブライザーの貸与 ●ピークフローメーターの支給又は貸与

【事業規模】

年度	事業実施自治体数	相談参加者数(人)	家庭訪問指導者数(人)	ピークフローメーター(個)	ネブライザー(台)
H22年度(予定)	43	13,357	389	260	100
H21年度(実績)	43	8,980	273	390	100

【事業費(平成22年度)】 63,201千円(平成21年度実績:46,277千円)

健康診査事業

【事業内容】

地方公共団体では乳幼児健診の機会を利用して、保健師・医師等の問診・診察等により児のアレルギー症状の有無等を把握し、ぜん息の発症リスクが高い児については発症予防のための適切な指導等を行っています。



公害健康被害予防事業	
基金事業	自立支援型公害健康被害予防事業
●健康診査 ●血液検査	●健康診査により把握されたリスク児に対する指導 ●ピークフローメーターの支給又は貸与 ●ネブライザーの貸与

【事業規模】

年度	事業実施自治体数	指導対象リスク児スクリーニング者数(人)	血液検査受診者数(人)	ピークフローメーター(個)	ネブライザー(台)
H22年度(予定)	27	142,072	815	0	0
H21年度(実績)	27	141,681	485	0	0

【事業費(平成22年度)】 165,299千円(平成21年度実績:144,290千円)

機能訓練事業
(水泳訓練教室、音楽訓練教室、ぜん息キャンプ)

【事業内容】

地方公共団体ではぜん息患者の体力向上、日常生活における自己管理を支援すること等を目的として、医師の健康管理のもと、専門の指導員による水泳訓練、腹式呼吸を習得するために専門の指導員による吹奏楽器等を用いた音楽訓練、専門の指導員による療養生活上の指導、ぜん息の理解を深め自己管理を身につけるためのぜん息キャンプを行っています。



公害健康被害予防事業	
基金事業	自立支援型公害健康被害予防事業
<ul style="list-style-type: none"> ●15歳未満の者に対する水泳訓練教室 ●15歳未満の者に対する音楽訓練教室 ●15歳未満の者に対するぜん息キャンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ●15歳以上の者に対する水泳訓練教室 ●15歳以上の者に対する音楽訓練教室 ●自己管理説明会、個別指導 ●ピークフローメーターの支給又は貸与 ●ネプライザーの貸与

【事業規模】

年度	水泳教室		音楽訓練教室		ぜん息キャンプ	
	事業実施自治体数	参加者(人)	実施自治体数	参加者(人)	実施自治体数	参加者(人)
H22年度(予定)	36	44,571	11	1,005	25	5,980
H21年度(実績)	36	27,140	11	549	24	4,706

【事業費(平成22年度)】 301,253千円(平成21年度実績額 235,442千円)

環境改善事業

特集

公害健康被害予防事業

環境保健（直轄事業）

環境保健（助成事業）

環境改善事業

調査研究

局地的な大気汚染を改善するための新たな研究課題として以下の3課題について研究を開始しています。

平成22年度の研究課題

No	実施機関	研究課題
1	株式会社数理計画	局地汚染地域におけるシミュレーションモデルを用いた各種自動車排出ガス抑制対策の環境改善効果評価手法確立に関する研究
2	福岡県	自然風を駆動力とする高活性炭素繊維(ACF)を用いた高機能NOx浄化システムの開発研究
3	株式会社アスア	一般ユーザーに対するエコドライブの普及による大気汚染の改善手法に関する調査研究

●自然風を駆動力とする高活性炭素繊維(ACF)を用いた高性能NOx浄化システムの開発研究

交通量の多い交差点などで、自動車排出ガスに含まれる有害な大気汚染物質が非常に高濃度になることが問題になっています。

環境再生保全機構は、福岡県の協力を得て「自然風を駆動力とする高活性炭素繊維を用いた高機能NOx浄化システムの開発研究」に取り組み、汚染空気を浄化する技術の確立を目指しているところです。

この技術は、繊維表面に多数の微細孔をもつ高活性炭素繊維を用い、大気中のNOxを除去する技術です。ACFは酸化触媒作用を持ち二酸化窒素だけでなく一酸化窒素の除去も可能であり、また汚染された空気を自然風や車両の走行風により「ACFユニット」へ取り込むため電気等は不要です。

今年度は、NO浄化能力をより高めることなどを課題としながら、今までの研究内容の体系化を行っているところです。

知識の普及

■大気汚染防止推進月間ポスター

環境再生保全機構と環境省では、大気汚染防止推進月間の啓発活動の一環として、青い空の大切さや一人ひとりが取り組むべきことなどを広く呼びかけるために、ポスター図案募集を行いました。応募のあった5,262点の中から、絵本作家のやなせたかし氏、音楽家の湯川れい子氏らの選考委員により審査を行い、環境大臣賞や独立行政法人環境再生保全機構理事長賞など16点の入賞作品を決定しました。受賞作品を活用して、ポスター（約89,000部）及びカレンダー（約38,000部）を作成し、全国の学校や地方公共団体に配布・掲出しました。



環境再生保全機構
理事長賞

みんなでえがこう青い空

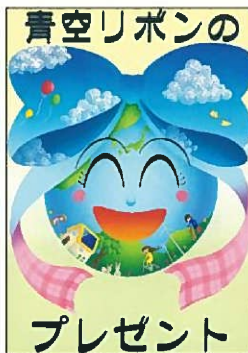
にしもり はるか

富山市立水橋中学校（富山県）2年 西森 遥香さん

西森遥香さんのコメント

青空。アメリカやイギリス等では"Blue Sky"。フランスや中国、インド等、他の国ではどう言うのでしょうか。世界には多くの国があり、様々な民族がいて、それぞれ違う環境で暮らしていますが、みんな同じ空の下で生きています。かけがえのない澄みきった青空をいつまでも残したいという気持ちは世界中変わらないはず。今、その空が少しずつ汚され、大気汚染の問題は深刻化しています。この青空を守るためには、大気汚染を防止する私たち一人一人の心がけが大切です。未来に美しい青空を残すために、愛情や協力、配慮などといった優しい色の「クレヨン」を持って、みんなで青い空を描いていきたい、そんな思いを表現しました。

環境再生保全機構理事長賞「みんなでえがこう青い空」は、本号予防事業だよりの表紙として採用しています。



環境大臣賞

青空リボンのプレゼント
徳島県立城南高等学校（徳島県）2年
ふじもと まなみ
藤本 愛美さん



優秀賞

ほんとは空ってこんなに青い
横浜市立東鴨居中学校（神奈川県）2年
はるま 羽山 ひかりさん



優秀賞

きれいなそら
南関保育所（福岡県）年長
すずき こころ
鈴木 心渚さん

■エコドライブコンテスト

環境再生保全機構と環境省では、エコドライブ（環境負荷の軽減に配慮した自動車の使用）が全国に普及することを目的とした「エコドライブコンテスト」を実施しています。

このコンテストは企業におけるエコドライブ活動全体を審査するもので、自動車を運転するドライバーとその自動車を保有する企業の協働によってエコドライブを継続的に推進し、大気汚染の防止につなげることを目指しています。

平成22年度エコドライブコンテストでは、参加事業者数12,224事業者、参加車両台数315,114台、参加人数576,632人の応募があり、その中から選考委員会（委員長 大聖泰弘：早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授）による審査を行い、環境大臣賞1件、独立行政法人環境再生保全機構理事長賞2件、優秀賞2件、優良賞34件を決定しました。

今回は、平成22年度エコドライブコンテストで環境再生保全機構理事長賞を受賞した中越運送株式会社東京支社とTOTO株式会社九州支社の事例をご紹介します。

●中越運送株式会社東京支社

中越運送株式会社東京支社は、エコドライブ活動の歴史が長く、平成20年度に入賞、平成21年度に優秀賞を受賞している企業です。今回は125台の車両と、165名の社員が参加しました。

中越運送株式会社東京支社が行っているエコドライブ活動の一つが「たったこれ"だけ"エコキャンペーン」です。このキャンペーンでは①ゆっくりアクセルを踏むだけ②早めにシフトアップするだけ③多めに車間距離をとるだけ④早めにアクセルを離すだけ⑤ゆっくり停止するだけ・・・と燃費向上、事故防止につながる目標を取り組みやすい形で定めていました。

また事故防止対策として「ヒヤリハット体験報告」を社内でもとめ、全拠点に配布したりミーティングに活用したりするといった活動も行われています。

●TOTO株式会社九州支社

TOTO株式会社九州支社は今回エコドライブコンテスト初参加の企業です。139台の車両と、295名の社員が参加しました。

TOTO株式会社九州支社のエコドライブ活動のポイントの一つが、独自の燃費データ管理です。「車両管理システム」に各課管理者が毎月月間のデータを入力することになっており、入力を忘れると催促のメールが配信されるようになっています。さらにこのシステムは、記録ミス（燃費の異常値など）があるとあらかじめ設定されている補正システムなどが働くようになっています。

また、北九州市が行っている「エコドライブ北九州プロジェクト」に参画し、データの構築の仕組みやエコドライブ活動のノウハウなどの情報の収集活動も積極的に行っています。

TOTOグループ全社がエコドライブ活動を展開している中で、これらの活動を行う九州支社が牽引役となっています。

■エコドライブセミナー

エコドライブ等に関する基調講演や事業所で行うエコドライブ活動の優秀事例の発表等を題材に、自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質による局地的な大気汚染対策として、事業者や一般の方々を対象にエコドライブの取組をより分かりやすく伝えることで、エコドライブ及びエコドライブ活動の普及・推進を図ることを目的としたエコドライブセミナーを、自治体等の協力を得て7箇所（平成22年5月：大阪・三重、6月：福島・東京・福岡・愛知、7月：群馬）で開催しました。また、同様のエコドライブセミナーを平成23年2月初旬より8箇所で開催する予定です。

〈下半年開催（予定）〉

開催地区	千葉	東京	大阪	三重	愛知	静岡	兵庫	福岡
開催(予定)日	2月2日(水)	2月4日(金)	2月9日(水)	2月21日(月)	2月24日(木)	2月25日(金)	2月28日(月)	3月1日(火)
会場	船橋市民文化創造館 きららホール	東京都トラック総合会館	大阪歴史博物館	四日市商工会議所会館	中電ホール	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	兵庫県トラック協会研修センター	西日本総合展示場新館(AIMビル)

■助成事業

	計画作成事業	最新規制適合車等代替促進(助成)事業	大気浄化植樹(助成)事業
実施自治体数	1	9	2
事業費	247千円	38,080千円	7,493千円

※H22年度(予定)

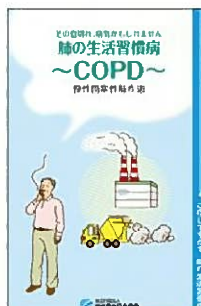
新刊パンフレット等のご案内



すこやかライフNo.36

ぜん息と慢性閉塞性肺疾患の方向けに最新情報を掲載している生活情報誌。著名人へのインタビュー、読者Q&Aなどのコーナーもあります。

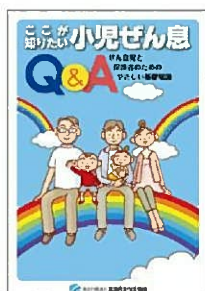
仕様:A4判 25ページ
発行:平成22年10月



その息切れ、病気かもしれません 肺の生活習慣病～ COPD ～

第一部ではCOPDをまだ認知していない方を対象に、COPDの予防、早期診断・早期治療を促す内容に、第二部は、重症化していないCOPD患者さんを対象に、重症化を予防する対策を紹介しています。

仕様:A4判 18ページ
発行:平成22年5月



ここが知りたい 小児ぜん息Q&A

1993年に発行した「お母さんのためのぜん息Q&A」を前身に、新たな内容として、乳児のぜん息や学校(園)での注意点についてQ&Aを追加しました。

仕様:A4判 64ページ
発行:平成22年7月



仕様:A5判 6ページ
発行:平成22年7月

子どものぜん息&アレルギーシリーズ①～⑩

ぜん息・アレルギーの発症予防のための対策や日常生活の留意点をわかりやすくイラストで図解したリーフレットです。



ぜん息予防のための よくわかる食物アレルギーの基礎知識

「健康的で」「安心できる」「楽しい」食生活が営めるように、食物アレルギーに関する基礎知識はもちろんのこと、より実践的に活用いただけるように、食事療法のポイントや食物アレルギー誤食予防のための対策をわかりやすく説明したひやりはっと事例を4コマ漫画で紹介しています。

仕様:A4判 60ページ
発行:平成22年8月



めざせ! 快適生活 成人ぜんそくハンドブック

ぜん息患者の皆様から寄せられた質問や、日常生活における注意点、アドバイスなど、ぜん息患者さんの視点に立った内容をまとめた成人向けのぜん息ハンドブックです。

仕様:B5判 120ページ
発行:平成22年11月

パンフレット等のお申し込み・お問い合わせについて

環境再生保全機構では、パンフレット等の無料配布、各種パネルやビデオ・DVD・CD等の貸し出しを行っています。お申し込みはお電話(平日9:00～18:00)、またはFAX、ホームページから受け付けています。お気軽にお問い合わせ下さい。

環境再生保全機構 予防事業部事業課

電話でのお申し込み TEL 044-520-9568

FAXでのお申し込み FAX 044-520-2134

ホームページでのお申し込み <http://www.erca.go.jp/asthma2/pamphlet/>

環境再生保全機構ホームページから・・・「ぜん息などの情報館」→「サービス」→「パンフレット&ビデオ」

ぜん息・COPD電話相談室

ぜん息、COPDのこと、なんでも誰でもご相談ください。専門医・看護師がお答えします。【受付時間】月～金(祝日を除く)9:00～17:00

相談無料 ☎ 0120-598014

環境再生保全機構ホームページから・・・「ぜん息などの情報館」→「サービス」→「ぜん息・COPDに関する相談」→「ぜん息・COPD電話相談室」